吉岡町議会だより
No.113
年4回発行
●発行　吉岡町議会
●責任者　議長　岸　祐次
●編集　議会広報常任委員会
群馬県北群馬郡吉岡町大字下野田560
☎0279-54-3111

キラリよしおか古語り⑥

吉岡町と万葉集

伊香保街道沿いの林の中に、万葉のこころを今に伝える万葉歌碑が建っている。そこには、「伊香保ろ乃やさかの井堤に立つ虹の現はろまでもさ寝をさねてば」と刻まれている。

万葉集には、上野国（今の群馬県）に関する歌が多く収録されている。特に、東歌を収録した巻十四では、総数230首のうち25首が上野国歌として収録されていて、相模国の12首、常陸国の10首を大きく引き離し、最も多い。このことは、古代の群馬が東国文化の中心として発展を遂げたことを物語っている。この25首のうち、伊香保をうたった歌が9首あり、伊香保が上野国にとって中心的な存在であったことがうかがわれる。伊香保といっても、現在の湯の町伊香保のことではなく、「厳秀」または「厳穂」で、いかめしくそびえる山のことで、今の榛名山を指すものである。

冒頭の歌の「八坂の井堤」がどこかについて、幕末から明治時代の国学者、歌人である橋本直香が、その著書「上野歌解」において、上野田地内に井堤という地名が残っているのでその辺りであるとしている（ただし、八坂の井堤については、諸説ある）。

当時の榛名山東麓に住む人々が榛名山を仰ぎ見ながら、どのような暮らしをし、どのような感慨にふけったのかを考えるとき、胸が締め付けられるような親しみとたかぶりを覚える。

参考文献「吉岡村誌」

編集後記

8月30・31日に東北地方を縦断した台風10号は、太平洋側から上陸するという観測史上かつてない動きをし、その被害は甚大なものでありました。

近年、今まで経験したことがない雨、あるいは50年に一度の記録的な大雨などの言葉が頻繁に聞かれます。その度に大変な被害の様子がテレビに映し出されます。今回も、岩手県岩泉町の9人のお年寄りが濁流に飲み込まれた現場の様子、友好都市である北海道大樹町や近隣の水害の様子など、胸を痛めるばかり。

この9月議会でも災害に向けた一般質問がありました。災害が少ないといわれる吉岡町ですが、いつでもわがまちも被害を受ける可能性はあるのです。他地域のことと思わず、自分のこととしてどう行動するか、考えていくことが大切だと改めて心に刻む思いです。

（大林　裕子）

編集委員
委員長　坂田　一広
副委員長　金谷　康弘
委員　村越　哲夫
竹内　憲明
柴﨑徳一郎
大林　裕子
富岡　大志